

(様式2)

校 種	①・中 どちらかに○	学校番号	9	学校名	宇都宮市立陽南小学校
-----	---------------	------	---	-----	------------

平成25年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 学習内容定着度調査などから

- ・ 国語では、話の内容を聞き取り、話し手の意図を理解する力はよく身についている。反面、段落どうしの関係をつかむ、文脈に即して内容を読み取る、登場人物の行動から心情を想像する、筆者の主張を読み取るなどの、物語文や説明文等の文章を理解する力にはやや欠ける傾向が見られる。
- ・ 算数では、数量や図形についての技能と数量や図形についての知識・理解については、比較的よく身についている児童が多いが、数学的な考え方については個人差が見られ、応用力や活用力がやや低い傾向の児童が見られる。

(2) 学習と生活についてのアンケートから

- ・ 授業への取り組みについては、おおむね満足できる状況にあるが、家庭での学習時間については、やや不十分な傾向にある。特に、休日の家庭での学習時間は、学年によってばらつきが見られる。また「授業で習ったことは、その日のうちに復習している」や「その日のめあてを決めて家庭学習に取り組んでいる」は、学年差が大きい傾向にある。
- ・ 教科への興味・関心については、全体的には高い傾向にあるが、学年差・教科差はある。また「学習しているいろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」「学習して身につけた知識は、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と感じている児童は多い傾向にあるが、こちらも学年差は見られる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 各教科とも、基礎的・基本的な内容については少しずつ習熟しつつあるが、思考力・判断力については、特に個人差が大きい。
- ・ 言語事項に対する理解がやや低い学年があり、内容を正確に理解したり深めたりすることがやや不十分である。
- ・ 書くなどの表現力について不得手な面が見られ、思いや考えを言葉や文字で伝えることが十分でない。
- ・ さまざまな事象に関心をもち、その事象の処理の仕方は理解するが、学びを確実なものにするための発展的な問題への取り組みや困難な問題への立ち向かいは弱い。

2 今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は、文頭に○または該当箇所に下線）

人とのかかわり、仲間とともに伸びる
～ 伝え合い、学び合い、認め合う児童の育成 ～

3 今年度の取組（地域学校園内で共通する取組は文頭に○、「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

(1) 自ら学ぶ意欲を喚起するような分かる授業の展開に努め、その中で、認め合い高め合う学習の場を設定することで、コミュニケーション能力の育成を図る。

① 学習の基礎・基本の確実な定着

☆ 話の聞き方・発表の仕方・声のものさし等の掲示資料を作成し、全学級において、学習のきまり（約束）の指導を繰り返し行い、基本的な学習態度の徹底を図る。（通年）

☆ 週2回の朝の学習の時間を効果的に活用し、漢字・計算の習熟を図るとともに、確認・振り返りの時間を月1回程度の割合で確保し、補充・定着を目指す。（通年）

② 学習指導の工夫・改善

☆ 学習内容定着度調査、学習・生活のアンケートの結果を分析し、今後の指導に役立てるとともに、結果（課題・改善策）をHP等に公表する。（4月）

○ 友達との情報交換・意見交換・討論等、学びの擦り合わせの場を各教科の学習の中で意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図る。（通年）

☆ 他教科・領域との関連を図るとともに、児童の学ぶ意欲をより喚起するような学習課題や学習活動を工夫し、積極的に取り入れていく。（通年）

☆ 本市独自の教科である会話科の学習を積極的に推進し、「ことばの時間」をより充実させるために、水曜日の朝「みやびタイム」を設定する。（年間16回の予定）

③ 読書活動の充実

☆ 朝の読書の時間を日課表に週2回位置づけ、読書の習慣化を図る。（隔週で金曜日はボランティアによる読み聞かせを実施する）（通年）

☆ 図書館だよりの定期的発行や、家庭においても本や新聞を読むことの大切さを保護者にも啓発する。（家読のすすめ）（通年）

(2) いろいろな人との出会いやふれ合い、関わり合いの場を設定し体験させることで、豊かな感性を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成する。（通年）

① 体験学習の充実

☆ 学校行事や学年行事、生活科や総合的な学習の時間等を中心として、交流体験、自然体験、奉仕体験等、多様な体験活動を設定し、その充実を図る。（通年）

② 家庭・地域との連携・協力

☆ 読み聞かせボランティア等の「街の先生」の協力を得て、学校支援ボランティアと連携・協力した学習活動を行う。（通年）

☆ 家庭訪問や授業参観・学級懇談会・個人懇談等において、学習内容定着度調査や学習・生活についてのアンケート結果をもとに、家庭学習や規則正しい家庭生活についての情報交換の場を設定する。（4月～8月）

☆ 家庭学習の習慣化のため、「家庭学習のしおり」と「家庭学習のヒント集」を作成し、適切な分量・内容の宿題を出すことと発達段階に応じた自主学習を励行する。（通年）

(3) 一人一人の児童が所属感と安心感をもち、自己表現のできる場や互いのよさを認め合える場を設定することにより、自分のよさを発揮し、生き生きと活動できる児童の育成を図る。

○ 水曜日の朝「にっこりタイム」を位置づけ、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウンター継続実施により、伝え合い認め合う雰囲気の醸成を図る。（年間18回の予定）

☆ 児童の実態調査（Q-U、アンケート等）を実施し（6月）、児童の実態を客観的にとらえ、把握・分析する。（8月）